

泌尿器科臨床研修プログラム

【責任者】

吉野 干城（泌尿器科部長）：島根大学医学博士（2007年）/島根大学医学部臨床教授/日本専門医機構泌尿器科専門医/日本泌尿器科学会指導医 /日本内視鏡外科学会技術認定医（腹腔鏡技術認定医）/日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 腹腔鏡技術認定医 /日本泌尿器科学会および日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器ロボット支援手術プロクター/泌尿器科da Vinci支援手術教育プログラム（執刀医）修了 /日本がん治療認定医機構 がん治療認定 医/前立腺水蒸気治療（Rezumi®）認定医 /身体障害者福祉法指定医 / 西日本泌尿器科学会評議員/緩和ケア研修会修了/臨床研修指導医

【指導者】

永見 太一（泌尿器科医員）：日本専門医機構 泌尿器科専門医/日本泌尿器科学会 指導医 /日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 腹腔鏡技術認定医/日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 / 泌尿器科da Vinci支援手術教育プログラム（執刀医）修了 / 前立腺水蒸気治療（Rezumi®）認定医/緩和ケア研修会修了/臨床研修指導医

【上級医】

藤川 慎之介（泌尿器科医員）：緩和ケア研修会修了
安藤 謙（泌尿器科医員）：緩和ケア研修会修了

【期間】：4週間～8週間（2年次選択 4週間ないし8週間）

【一般目標 GIO】

基本的な泌尿器科疾患のプライマリ・ケアが適切に行えるように、泌尿器科領域の専門的知識および診断的、治療的手技を習得する。

2年次もローテーションした場合の追加一般目標

泌尿器科領域のより踏み込んだ医学的知識（専門的生理の理解、診断的および治療的手技、外科的手技）を習得する。1年次に学んだ知識および技能をさらに発展して習得することを目標とする。

【行動目標 SB0 s】

1. 腎、泌尿器系臓器の解剖と機能を理解する。
2. 腎、泌尿器疾患に関する知識を取得する。
3. 腎、泌尿器疾患の診断に必要な問診及び理学的所見をとることができる。
4. 必要な検査を理解し、計画的に実施することができる。
5. 診察・検査の結果から診断ができる。
6. 診断に基づき、適切な治療方法を選択できる。
7. 患者心理を理解したうえで、患者への対応ができる。
8. 腎、泌尿器疾患の周術期管理ができる。

2年次もローテーションした場合の追加行動目標

より踏み込んだ泌尿器科的知識を得るために泌尿器科医とともに診察、検査、診断、治療などにあたるよう行動していただく。

【方略 LS】

On the job training

1. 主治医の指導の下に、受け持ち医として患者の問診、診察を施行し、検査計画、治療計画を立てる。
2. 泌尿器科的処置、検査を施行し、検査所見を把握し、診療録に記録する。
3. 病棟回診を上級医と共に行い、診療所見を把握して診療計画について協議し、診療録に記載する。担当患者の急変に対しては、上級医とともに直ちに対応する。ただし、時間外の急変については業務過多にならないように指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
4. 指導医の元、検査、治療について患者、家人に説明・同意書に基づいて説明を行う。
5. 泌尿器科手術に参加して、手術の基本的な手技を習得し、上級医の指導のもと、小手術の執刀医となり、手術記録を作成する。
6. 救急業務

平日日勤帯の救急患者で泌尿器科がコールされた時は上級医とともに対応する。ただし、時間外の急変については業務過多にならないように指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。

※2年次には手術に関しては腹腔鏡手術やロボット支援手術などの助手の一部も担当していただく。

Off the job training

1. カンファレンスに参加し、症例のプレゼンテーションを行う。回診時には担当患者の対応をメインで行って頂く。
2. 泌尿器科に関連する研究会、学会に参加する。
3. 経験症例で報告の意義のある症例について学会発表を行う。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	回診 外来	回診 外来	手術	回診 外来	回診 外来
午後	手術 病棟診療	処置 検査	手術	処置 検査	手術 病棟診療

【評価】

1. 研修医による評価

- (ア) 自己評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて自己評価を行う。
- (イ) プログラム評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて診療科（指導内容・研修環境）の評価を行う。
- (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて指導医・上級医の評価を行う。
- (エ) 指導者の評価：評価票を用いて主として患者が入院している病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。

2. 指導医による評価

- (ア) 研修医の評価：PG-EPOC（EPOC2）を用いて行う。
- (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
- (ウ) プログラム評価：評価票を用いて泌尿器科のプログラムの評価、病院全体のプログラムの評価を行う。
- (エ) 指導者の評価：評価票を用いて病棟で指導者に任命されている看護師、病棟担当薬剤師、検査技師の評価を行う。

3. 指導者による評価

- (ア) 研修医の評価：評価票を用いて行う。
- (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
- (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて自己評価を行う。